



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

ITスキル標準の今後の方針

2007年12月12日

独立行政法人 情報処理推進機構
IT人材育成本部 ITスキル標準センター

アジェンダ

- ITスキル標準の現状
- 産構審報告書
「高度IT人材の育成をめざして」の概要
- 情報処理技術者試験 新試験制度の概要
- ITスキル標準の改訂方針
- まとめ



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

ITスキル標準の現状

ITスキル標準の経緯



		組織	成果物	プロフェッショナル コミュニティ
2001年		<夏> タスクフォース検討開始		
2002年	普及の時代	<5月> ITスキルスタンダード協議会	<12月> ITスキル標準	
2003年		<7月> ITスキル標準センター設立	<7月> ITスキル標準V1.1 <7月> 研修ロードマップ(以下の6職種) (SALES、CONS、ITA、PM、ITS、APS)	<12月> ITアーキテクト
2004年	浸透の時代	<11月> ITプロフェッショナル育成協議会	<1月> ITスキル標準概説書 <8月> 研修ロードマップ(5職種) <8月> 研修ロードマップ(6職種) 改訂 <10月> ITスキル標準ガイドブック	<5月> プロジェクトマネジメント アプリケーションスペシャリスト
2005年		<10月> ITスキル標準V2改訂委員会	<12月> ITスキル標準経営者向け概説書	<5月> コンサルタント ITスペシャリスト オペレーション
2006年	活用の時代	<10月> ITスキル標準V2改訂委員会	<4月> ITスキル標準V2 <10月> ITスキル標準V2 2006	<10月> ITサービスマネージメント オペレーションを改称
2007年		<9月> ITスキル標準改訂委員会	<4月> ITプロフェッショナルへのいざない <6月> 研修ガイドライン <6月> 社内プロフェッショナル認定の手引き	<9月> エデュケーション

ITスキル標準の成果物



期間:2006/4/1~2007/9/30

No	カテゴリー	タイトル1	タイトル2	提供方法	ページ数	ダウンロード数	冊子発行数	
1	ITスキル標準本体	概要編	概要部	Web	2,192	381,696	-	
		キャリア編	各職種別 職種の定義と達成度指標	Web				
		スキル編	概要部	Web				
			スキルディクショナリ	Web				
			各職種別 スキル領域とスキル熟達度・知識項目	Web				
			各職種別 研修ロードマップ(本体)	Web				
			各職種別 研修ロードマップ(マトリクス)	Web				
			英語版ドラフト	Web				
			784	93				-
		2						
3		ITスキル標準概説書	冊子	95	-	10,000		
4		経営者向けITスキル標準概説書	冊子	75	-	3,250		
5		ITスキル標準紹介動画	Web	-	847	-		
6		ITスキル標準ポケットハンドブック	冊子	2	-	17,200		
7	附属書	ポケットハンドブック	ITアーキテクト解説書ダイジェスト	冊子	2	-	4,300	
8			アプリケーションスペシャリスト スキルアップ・クイックガイド	冊子	2	-	7,000	
9		研修ガイドライン	Web	173	1,469	-		
10		社内プロフェッショナル認定の手引き	Web	118	1,643	-		
11		ITプロフェッショナル育成ハンドブック	冊子	159	-	2,000		
12	パンフレット		ITスキル標準センター紹介	冊子	6	-	10,000	
13			2006年度情報化月間鼎談(鼎談1)	冊子	6	-	10,000	
14			2007年度大阪フォーラム鼎談(鼎談2)	冊子	6	-	10,000	
15	17	調査報告	ITスキル標準の活用指針などの提示	ITスキル標準の今後の運営活動の方向性に関する報告書(H17.4.8)	Web	10	1,832	-
16			その他の活動	情報サービス産業のビジネス戦略と人材育成への展開	Web	26	3,826	-
17				ITスキル標準センター企画 パネルディスカッション	Web	11	1,629	-
18				「ITプロフェッショナル育成とITスキル標準の活用について考える」	Web	7	1,739	-
19				「ITスキル標準と研修ロードマップの活用状況調査」アンケート結果	Web	28	1,801	-
20				「ITスキル標準の活用動向に関する調査」結果(H18.7.31)	Web	26	2,438	-
21	プロフェッショナル コミュニティ	ITアーキテクト委員会	ITスキル標準改善提案報告書	Web	45	6,715	-	
22			ITアーキテクト育成ハンドブック	Web	20	290	-	
23			ITアーキテクトの責務と活動プロセスに関する研究	Web	63	7,551	-	
24			参照アーキテクト調査報告	Web	2	1,443	-	
25			ITアーキテクト解説書ダイジェスト	Web	50	1,861	-	
26		アプリケーションスペシャリスト委員会	ITアーキテクトチャタモデル・セマンティクス解説書	Web	39	2,266	-	
27			ITスキル標準改善提案報告書	Web	62	3,904	-	
28			アプリケーションスペシャリスト育成ハンドブック	Web	59	1,584	-	
29			アプリケーションスペシャリスト評価ガイドライン	Web	3	100	-	
30			全プロセスの対応表	Web	4	85	-	
31	プロジェクトマネジメント委員会	情報システム開発業務プロセスの対応表	Web	98	4,450	-		
32		ITスキル標準改善提案報告書	Web	128	9,376	-		
33	コンサルタント委員会	PM育成ハンドブック	Web	80	1,246	-		
34		ITスキル標準改善提案報告書	Web	41	1,859	-		
35	ITスペシャリスト委員会	コンサルタント育成ハンドブック	Web	31	1,693	-		
36		ITスペシャリストITスキル標準改善提案報告書	Web	196	2,271	-		
37	ITサービスマネジメント委員会	ITスペシャリスト育成ハンドブック	Web	60	1,167	-		
38		職種:オペレーションに関する提言 育成ハンドブック	Web	72	452	-		
39	映像	ITスキル標準普及	ITスキル標準普及・活用	DVD	-	-	1,000	
40	その他	イベント資料など		Web	-	104,456	-	
				合計	4,781	551,782	74,750	

プロフェッショナルコミュニティの活動

- プロフェッショナルコミュニティの意義
 - 第一線で活躍している高度なスキルを持ったハイレベルのIT人材の意見を活用
 - ハイレベルなIT人材による指導, 後進の育成
 - プロフェッショナルの相互情報共有
- 活動と成果
 - 後進人材育成のためのガイドライン (育成ハンドブック)
 - ITスキル標準 / 研修ロードマップの内容のレビューや改善
 - ハイレベルなIT人材の育成要素に関する助言など
 - その他目的を達成するために必要な活動



ITスキル標準の職種に基づいて
コミュニティを設置



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

産構審報告書 「高度IT人材の育成をめざして」の概要

産業構造審議会情報経済分科会 情報サービス・ソフトウェア小委員会
人材育成ワーキンググループ報告書
「高度IT人材の育成をめざして」(経済産業省資料より)

URL: <http://www.meti.go.jp/press/20070720006/20070720006.html>

3. 高度IT人材育成に向けた具体的施策

1. 高度IT人材の具体像(キャリアとスキル)の可視化、共有化

- めざすべき高度IT人材像を、基本戦略系、ソリューション系、クリエイション系に区分し、必要なスキルを明確化。
- 人材キャリアを7段階に区分し、ミドルレベル(3段階)までは、情報処理技術者試験の可否によりレベルを判定。

2. 実践的かつ先端的な人材育成手法の確立、実践

- ソフトウェア工学手法、モデリング手法等、実践的かつ先端的なソフトウェア開発・管理手法を確立、普及。
- 大学等において、ダブル・メジャー教育(文系 or 理系 + IT)を推進
- 創造性に富んだ優れた人材(天才クリエイター)を早期発掘するとともに、その起業を支援。

3. 客観性の高い人材評価メカニズムの構築

- 情報処理技術者試験と人材スキル標準の統合により、客観的な人材評価メカニズムを構築。
- 情報処理技術者試験において、広く社会人一般に求められる基礎的な知識を問うエントリー試験を創設。

4. 我が国発の人材育成・評価システムの国際展開

- アジア統一IT試験の拡充強化を図るとともに、アジア諸国におけるIT人材育成を支援。
- プロジェクト・マネジメント手法やソフトウェア技術者認証方法、組込み人材育成手法の国際標準化を推進。

5. 高度IT人材育成のための推進体制づくり

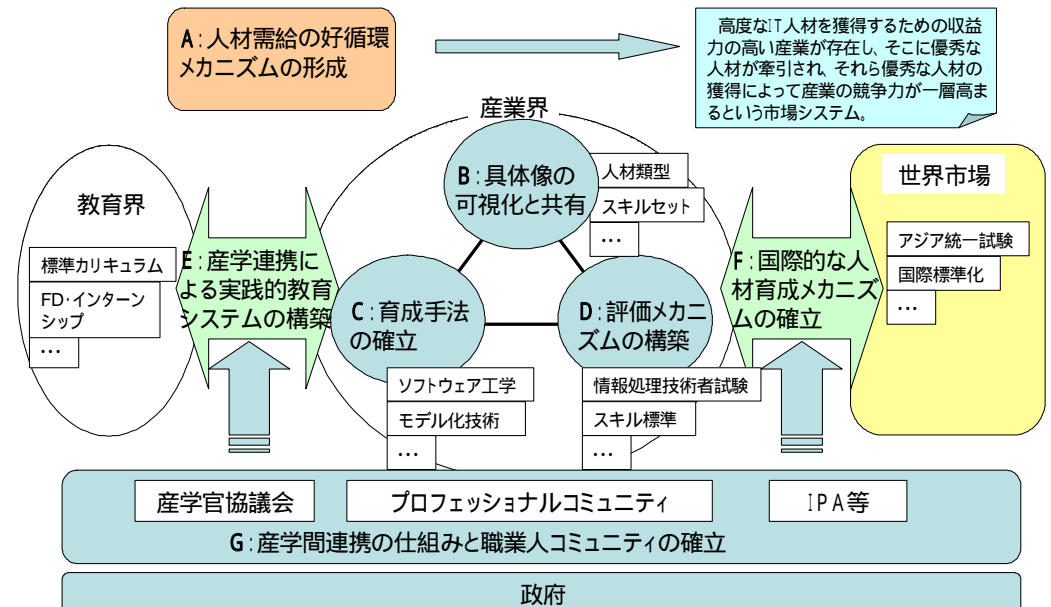
- 高度IT人材育成のロードマップと行動計画の策定、高度IT人材育成手法の開発を行う産学官協議会を設置。
- ストラテジストやアーキテクトなど、各専門分野の高度IT人材による自立的なコミュニティ活動を支援。

< 高度IT人材育成のための推進体制 >

次の事項を産学協議会で議論

- ✓ 新人教育やリカレント教育のベストプラクティス
- ✓ 民間研修の活用方策
- ✓ ファカルティ・ディベロップメントの支援方策
- ✓ 産業界と教育界との人材交流方策
- ✓ スキル標準に示された業務実施上の知識・スキル体系と、情報教育専門カリキュラムに示された知識・スキル体系との対応付け
- ✓ 初等中等教育段階におけるモデル的な人材育成プログラム

< 高度IT人材育成プラットフォーム >





4. 高度IT人材の具体像の可視化、共有化

< 共通キャリア・スキルフレームワーク(案) >
 今後、以下の方向性を踏まえ、資質、技能等を含めて
 詳細に検討を進める

< 現行スキル標準と新たな情報処理技術者試験の体系 >

大分類	中分類	小分類項目例	基本戦略系		ソリューション系			
			ストラテジスト	システムアーキテクト	サービスマネージャ	プロジェクトマネージャ	テクニカルスペシャリスト	
知識	テクノロジ系知識	1 情報に関する理論	情報理論、離散数学、確率、統計、待ち行列、数値、データ表現など	x		x	x	
		2 アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムとデータ構造、プログラミング基礎、オブジェクト指向、プログラミング言語、マークアップ言語など					
		3 コンピュータ構成要素	CPU、メモリ、トランザクション処理システム、デバイスなど					
		4 システム構成要素	システム構成方式、システムの性能、システムの信頼性・経済性など					
		5 ソフトウェア	OS、ミドルウェア、オープンソースソフトウェア、ファイルシステム、言語処理など					
		6 ハードウェア	電気、電子回路、機械、制御、論理回路など					
	技術要素	7 ヒューマンインターフェース	ユーザビリティ、ユーザインターフェイス、バーチャルリアリティ、3Dグラフィックなど					
		8 マルチメディア	音声処理、静止画処理、動画処理、圧縮・伸長、メディア統合など					
		9 データベース	データベース設計、データ操作、トランザクション処理など					
		10 ネットワーク	有線・無線通信、ネットワークアーキテクチャ、サーバ、ルータ、LAN/WAN、イーサネット、IPなど					
		11 セキュリティ	暗号、セキュリティ基礎・管理、技術評価、対策、実装、電子署名など					
		12 ソフトウェア開発	ソフトウェア要求定義、ソフトウェア開発方法、ソフトウェア開発プロセス、コード作成、結合、テスト、品質、開発環境など					
マネジメント系知識	13 プロジェクトマネジメント	総合マネジメント、スコープマネジメント、品質マネジメント、コストマネジメント、タイムマネジメント、人的資源マネジメント、コミュニケーションマネジメント、リスクマネジメントなど						
	14 調達マネジメント	提案依頼書、見積書、提案書、選定基準、EVM、導入、受入、検収、移行など						
	15 サービスマネジメント	サービスレベル管理、インシデント管理、構成管理、変更管理、リソース管理、キャパシティ管理、情報資産管理、セキュリティ管理、利活用など						
	16 システム監査	システム監査、情報セキュリティ監査、および監査技法、ITガバナンス、内部統制、事業継続など						
戦略系知識	17 システム設計	モデリング、システム設計、要求定義、方式設計など						
	18 システム戦略	IT戦略、投資対効果、エンタープライズアーキテクチャ、ビジネスアーキテクチャ、SOAなど						
経営戦略	19 ビジネスインダストリ、船込製品ドメイン	ビジネス領域(金融、物流、公共等)、組込製品(携帯、自動車、家電等)など						
	20 経営戦略マネジメント	経営管理、SCM、CRM、BPRなど						
企業法務	21 企業活動	組織論、意思決定論、企業会計、企業財務など						
	22 法務	知的財産権、契約、法律、技術者倫理、標準化など						

クリエイション系の知識項目は一概に整理することができないため、本表には記載していない。

x	必ずしも必要とはしない
	知識項目として軽く認識していることが望まれる
	一定の理解があることが必要
	欠(このできないコア知識項目であり、深い理解が必須/高度試験の午後問題で問うような項目)

現行のスキル標準(34職種)	スキル標準	
IT/ITスキル標準(11)		
ET組込みスキル標準(10)		
UI情報システムユーザスキル標準(13)		
1	ビジネスストラテジスト	UI
2	ISストラテジスト	UI
3	プログラムマネージャ	UI
4	ISアナリスト	UI
5	マーケティング	IT
6	セールス	IT
7	コンサルタント	IT
8	プロダクトマネージャ	ET
9	ISアーキテクト	UI
10	ITアーキテクト	IT
11	システムアーキテクト	ET
12	ISオペレーション	UI
13	ISアドミニストレータ	UI
14	セキュリティアドミニストレータ	UI
15	ISスタッフ	UI
16	ISオーディタ	UI
17	ITサービスマネージメント	IT
18	カスタムサービス	IT
19	プロジェクトマネージャ	UI
20	プロジェクトマネジメント	IT
21	プロジェクトマネージャ	ET
22	ブリッジSE	ET
23	開発プロセス改善スペシャリスト	ET
24	システムデザイナー	UI
25	アプリケーションデザイナー	UI
26	アプリケーションスペシャリスト	IT
27	ITスペシャリスト	IT
28	ソフトウェアデベロッパー	IT
29	ドメインスペシャリスト	ET
30	ソフトウェアエンジニア	ET
31	QAスペシャリスト	ET
32	テストエンジニア	ET
33	開発環境エンジニア	ET

34 エデュケーション IT

人材類型	人材像	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
		レベル1~3は試験で判定			試験と業務経験等で判定	業務経験及びプロフェッショナルによる審査等で判定		
基本戦略系	ストラテジスト	エントリ試験(仮称)			ストラテジスト試験	業務履歴の確認		
	システムアーキテクト	基本試験(仮称)			システムアーキテクト試験	業務履歴の確認		
ソリューション系	サービスマネージャ	基本試験(仮称)			サービスマネージャ試験	業務履歴の確認		
	プロジェクトマネージャ	基本試験(仮称)			プロジェクトマネージャ試験	業務履歴の確認		
	テクニカルスペシャリスト	基本試験(仮称)			テクニカルスペシャリスト試験	業務履歴の確認		
	クリエイター	基本試験(仮称)			クリエイター試験	業務履歴の確認		

1 情報セキュリティ試験とシステム監査試験については、人材像としてはサービスマネージャ又はテクニカルスペシャリストに含まれるが、試験としては引き続き存続する。
 2 アプリケーションの設計、構築については、新たな人材像において設計はシステムアーキテクトの一部、構築はテクニカルスペシャリストの一部として位置づけるが、試験としては、システムアーキテクト試験の中において、アプリケーションの設計から構築までを含むものとする。

共通キャリア・スキルフレームワークに基づくレベル判定

産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会人材育成ワーキンググループ報告書
 ~ 高度IT人材の育成をめざして ~ 5 - 4より

情報処理技術者試験を共通キャリア・スキルフレームワークに基づくレベル判定に活用

(1) 共通キャリア・スキルフレームワークにおけるレベルは1から7までの7段階とし、レベル1をエントリレベル、レベル2及びレベル3をミドルレベル、レベル4及びレベル5をハイレベル、レベル6及び7をスーパー・ハイレベルに区分する。このうち、「高度IT人材」はレベル4以上とし、レベル5から7までの具体的なイメージは、以下のとおりとする。

レベル5: 企業内のハイエンドプレイヤー

レベル6: 国内のハイエンドプレイヤー

レベル7: 国内のハイエンドプレイヤーかつ世界で通用するプレイヤー

(2) レベル1～3の評価は、知識及び技能について能力ベースで行うこととし、基本的に情報処理技術者試験への合格をもってレベル認定を行う。他方、レベル4以上の評価は、知識、技能及び資質について成果ベースで行うこととし、情報処理技術者試験のほか、業務履歴の確認と面接を併用する。

(3) レベル4については情報処理技術者試験と業務経験を確認することでレベルを判定し、また、レベル5の判定については、基本的にガイドラインベース41での民間企業での自主的取組に委ねる。

一方、国内の整合性を確保する観点から、レベル6及び7については、同程度のレベルにあるハイエンドプレイヤー同士のピア・レビューにより判定を行う仕組みを構築する。

(4) 民間活力活用の観点から、各スキル標準の下で民間試験及びその他の人材評価手法が位置付けを得るための仕組み(申請方法、審査基準、審査体制、審査料等)を構築する。

高度 IT 人材	スーパー ハイ	レベル7	国内のハイエンドプレイヤーかつ世界で通用するプレイヤー	成果(実績)ベース	プロミ	情報処理技術者試験での対応はレベル4まで
		レベル6	国内のハイエンドプレイヤー	業務経験や面談等		
		レベル5	企業内のハイエンドプレイヤー	試験+業務経験により判断		
	ハイ	レベル4	高度な知識・技能	各企業で判断	高度試験	
		レベル3	応用的知識・技能		ミドル試験	
		レベル2	基本的知識・技能		基礎試験	
		レベル1	最低限求められる基礎知識		試験の合否	
ミドル	レベル3	応用的知識・技能	スキル(能力)ベース			
エントリ	レベル1	最低限求められる基礎知識	試験の合否			



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

情報処理技術者試験 新試験制度の概要

新試験制度審議委員会 - 中間報告書 - 高度IT人材の道標
(IPA / 情報処理技術者試験センター資料より)

URL: <http://www.jitec.jp/index.html>

高度IT人材の類型 (2/2)

(出典:「産業構造審議会人材育成ワーキンググループ報告書」5 - 4,「高度IT人材への道標」の5頁ご参照)

人材像	人材類型	人材類型の説明	試験での対応
<基本戦略系人材> 各種課題のITによる解決のための基本戦略を立案	ストラテジスト	ITを活用したビジネス価値の増大をリードする。	対象
<ソリューション系人材> 情報システムの設計, 開発や, 信頼性・生産性の高い運用を総括	システムアーキテクト	ビジネス戦略に対して最適なシステムをデザインする。	
	サービスマネージャ	継続的な高い信頼性を確保しつつ, システムを維持する。	
	プロジェクトマネージャ	与えられた制約条件(品質, コスト, 納期等)下で, 信頼性の高いシステム構築を総括する。	
<クリエイション系人材> 新しい要素技術を用いて社会・経済的なフロンティアを開拓	クリエイター	新たな要素技術の創造等により社会・経済にイノベーションをもたらす。	対象外
<その他>	その他	ITスキル標準のエデュケーションが該当する。	

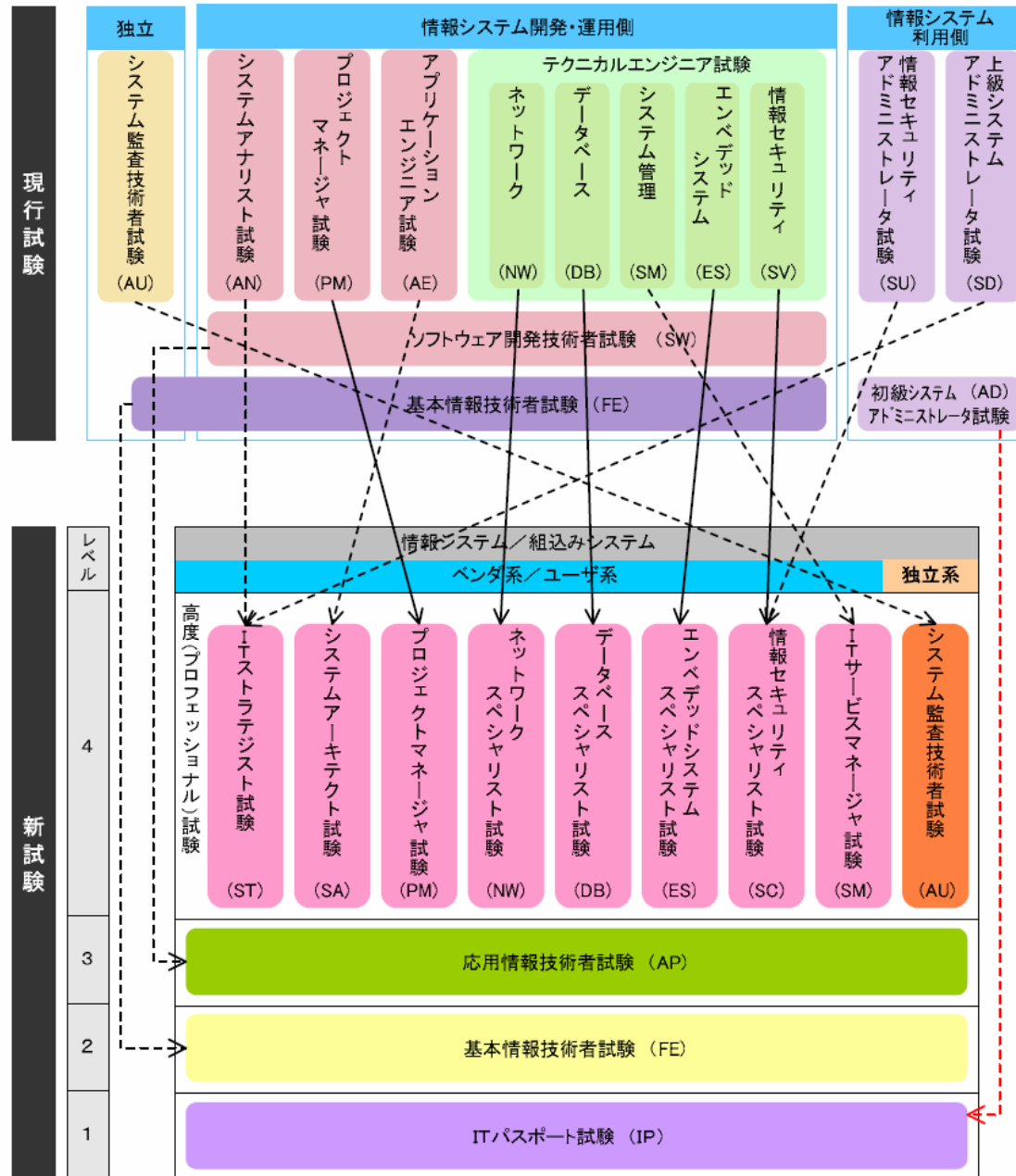
新試験の7つの特色

1. 共通キャリア・スキルフレームワークのレベル判定ツール化
試験の合否をレベル判定の尺度として利用(レベル1～4の一部)
2. エントリ試験(ITパスポート試験)を創設
広く職業人一般に求められる情報技術に関する基礎的な知識を問う
3. 「情報システム」のベンダ側人材とユーザ側人材の一体化
4. 「組み込みシステム」の重要性の高まりに対応
5. 受験者の利便性の向上
エントリ試験(レベル1)においてC B T の導入を目指す
高度試験において午前免除制度を拡大
6. 高度試験の区分を11から9区分に整理, 統合
7. 最新の技術動向を反映した出題範囲の抜本的見直し

C B T : Computer Based Testing ,

端末のパソコン上で試験問題を表示し、解答する試験実施方式

新試験と 現行試験の 対応関係



- : 現行試験区分と新試験区分は、試験の対象範囲・レベル感においておおむね相当することを示す。
- - -> : 現行試験区分と新試験区分は、試験のレベル感においておおむね相当するが、新試験区分において出題範囲の一定の拡大や技術面の部分的な補完などがあることを示す。
- · · - - -> : 現行試験区分と新試験区分の対象範囲はほぼ同様であるが、現行試験区分が新試験区分のレベルを包含する関係にあることを示す。



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

ITスキル標準の改訂方針

ITスキル標準改訂委員会

【委員会開催主旨】

ITスキル標準の改訂公開にあたり、改訂版の品質を高め、より使い易いものにするために、品質や公開資料としての妥当性についてレビュー、承認をいただく。

ITスキル標準改訂委員会

ITスキル標準改訂委員会	
第1回	ITSSを取り巻く状況の説明、改訂の趣旨説明、改訂方針の検討
第2回	改訂の方針の承認、レベル1～3についての議論、意見交換
第3回	改訂ドキュメントレビュー
第4回	公開版承認、レベル4以上についての議論
第5回	改訂ドキュメントレビュー
第6回	公開版承認、認定の手引きレビュー

委員	所属・タイトル
有賀 貞一【委員長】	株式会社CSKホールディングス 取締役
神沼 靖子	学術博士 情報システム学会 理事
五味 利明	富士通株式会社 インフラサービス事業本部 主席部長
嶋田 圭吾	株式会社クロスフォース 取締役副社長
島田 洋之	東京海上日動システムズ株式会社 常務取締役
杉浦 昌	日本電気株式会社 IT戦略部 (セキュリティ技術センター) シニアマネージャー
杉山 健	アクセンチュア株式会社 官公庁本部 エグゼクティブ・パートナー
高橋 秀典	特定非営利活動法人 ITSSユーザー協会 専務理事
田原 幸朗	社団法人 情報サービス産業協会(JISA) 事務局次長 調査企画部長
角田 千晴	社団法人 日本情報システム・ユーザー協会(JUAS) 事業企画推進部長
橋爪 宗信	株式会社NTTデータ シコンピテンシー本部 企画部長
平田 謙次	東洋大学社会学部社会心理学科 准教授 学術博士
村上 拓史	日本ユニシス株式会社 人材育成部 HR戦略推進室長

ITスキル標準の改訂方針

【背景】(ITスキル標準を取り巻く状況)

プロフェッショナルコミュニティによる改善提案

-ITスキル標準V2における職種別内容充実 IPCF(IPAX 2007)にて報告

-職種横断的な内容充実 現在も継続検討

産構審人材育成WGの答申(産構審報告書*1)の施策具現化

-共通キャリア・スキルフレームワークとの整合化

-情報処理技術者試験との同期化

【改訂内容】

－ 2007年10月:改訂方針通知

・ITスキル標準V3の改訂方針と改訂時期

・ITスキル標準 V2 2007(2007年10月)の改訂はしない

－ 2008年3月:改訂版公開 ITスキル標準V3(仮称)

・レベル1～3の職種共通化と試験との一体的運用を前提とした内容の見直し

・IPCF2007で公開されたプロコミ改善提言に基づく職種専門分野の見直し

－ 2008年10月:改訂版公開 ITスキル標準V3 2008

・ITSSレベル4以上と共通キャリアスキルフレームワークとの整合化

(職種名の整合化、知識・技能(スキル)の整合化)

*1:産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会人材育成ワーキンググループ報告書「高度IT人材の育成をめざして」

改訂のポイント

【改訂のポイント】

1. 産構審報告書の施策の具現化

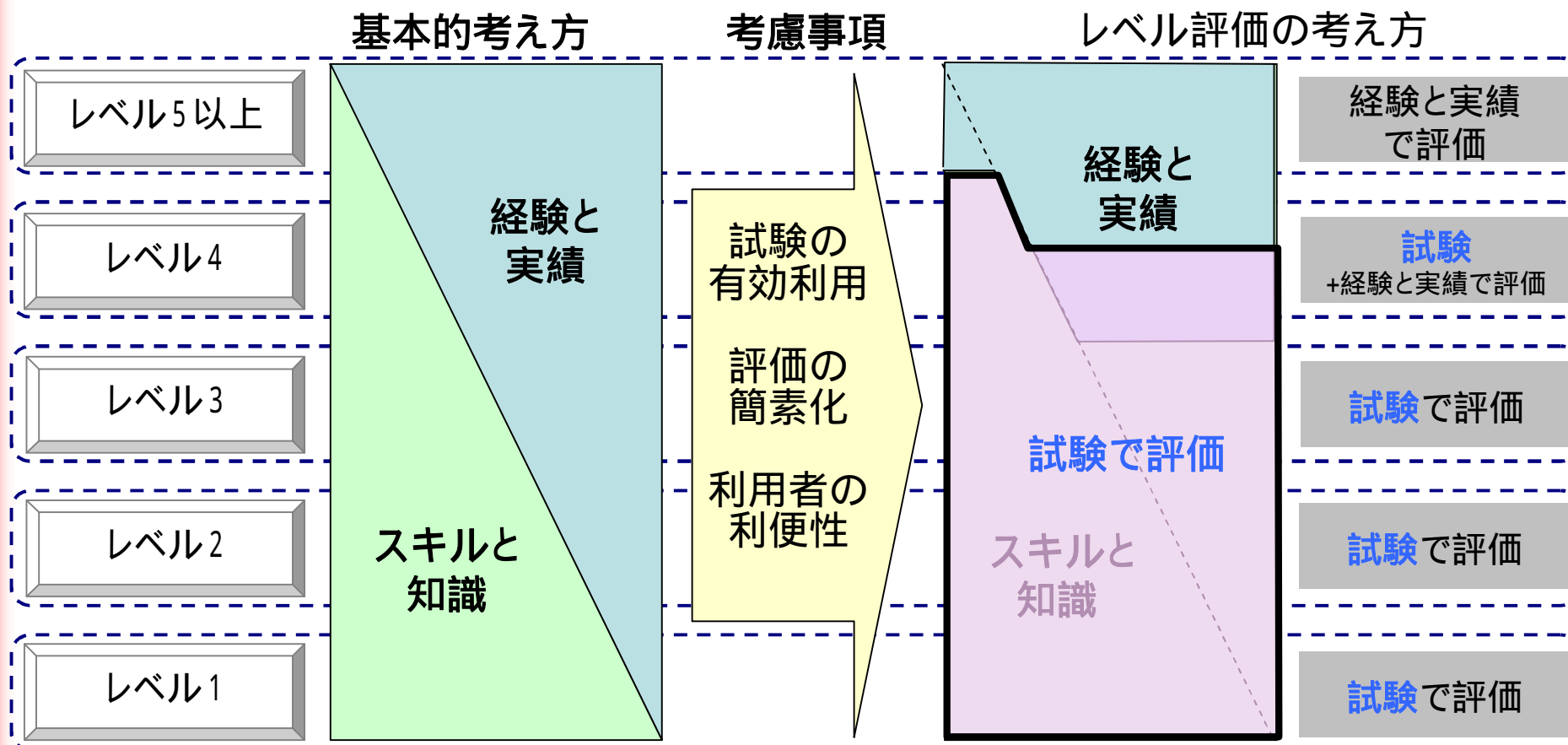
- ・産構審報告書及び情報処理技術者試験との整合化を図ります。
- ・レベル1～3は、基本的に情報処理技術者試験への合格をもってITスキル標準のレベルを評価します。

2. プロフェッショナルコミュニティによる改善提言への対応

- ・プロフェッショナルコミュニティによる平成18年度改善提案を受け、キャリアフレームワークの見直しを行います。

レベル評価の考え方

基本的な考え方: 経験を通じた学習を基本とするが、下位レベルにおいては、体系的な知識の修得を促進する。
 評価の簡素化、利用者の利便性を考慮し、情報処理技術者試験を評価手段として有効活用する
 レベル評価手段: レベル1~3 基本的に試験、レベル4 試験および経験と実績、レベル5以上 経験と実績



レベル評価に使用するITスキル標準のドキュメント(基本)

- ・レベル1～3は、基本的に試験の合格をもってITスキル標準のレベルを評価する。
- ・情報処理技術者試験と対応付けたスキル項目がレベル1～3のスキル熟達度に定義される。
- ・レベル4は、試験の合格と業務経験(達成度指標)をもとに評価する。

	達成度指標		スキル熟達度			
	ビジネス貢献	プロフェッショナル貢献	職種別		共通人材	
			スキル領域	スキル熟達度	スキル領域	スキル熟達度
レベル5 以上	経験と実績	育成と実績	スキル項目 <出題項目結合>	「～できる」	-	-
レベル4	経験と実績	育成と実績	スキル項目 <出題項目結合>	「試験合格できる」 または、「～できる」	-	-
レベル3	経験と実績	育成と実績	スキル項目 <出題項目結合>	「試験合格できる」 または、「～できる」	出題項目	「試験合格できる」
レベル2	-	-	-	-	出題項目	「試験合格できる」
レベル1	-	-	-	-	出題項目	「試験合格できる」

凡例:青文字 加筆、ならびに作成 網掛け レベル評価の指標 - 定義しない



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

ITスキル標準V3改訂まとめ (2008年3月予定)

ITスキル標準 V3 改訂概要 (2008年3月予定)

1. 産構審報告書の施策の具現化

- ・産構審報告書及び情報処理技術者試験との整合化を図ります。
- ・レベル1～3は、基本的に情報処理技術者試験への合格をもってITスキル標準のレベルを評価します。

2. プロフェッショナルコミュニティによる改善提言への対応

- ・プロフェッショナルコミュニティによる平成18年度改善提案を受け、キャリアフレームワークの見直しを行います。

職種	マーケティング	セールス	コンサルタント	ITアーキテクト	プロジェクトマネジメント	ITスペシャリスト	アプリケーションスペシャリスト	ソフトウェア開発	カスタマサービス	ITサービスマネジメント	エデュケーション
専門分野	マーケティングマネジメント	販売チャネル戦略	訪問型コンサルティングセールス 訪問型コンサルティングセールス マーケティングマネジメント	インターネットマーケティング インターネットマーケティング インターネットマーケティング	インターネットマーケティング インターネットマーケティング インターネットマーケティング	インターネットマーケティング インターネットマーケティング インターネットマーケティング	インターネットマーケティング インターネットマーケティング インターネットマーケティング	インターネットマーケティング インターネットマーケティング インターネットマーケティング	インターネットマーケティング インターネットマーケティング インターネットマーケティング	インターネットマーケティング インターネットマーケティング インターネットマーケティング	インターネットマーケティング インターネットマーケティング インターネットマーケティング
高度人材	レベル7										
	レベル6										
	レベル5										
	レベル4										
ミドル	レベル3										
	レベル2										
	レベル1										

レベル1～3の共通スキル項目の定義

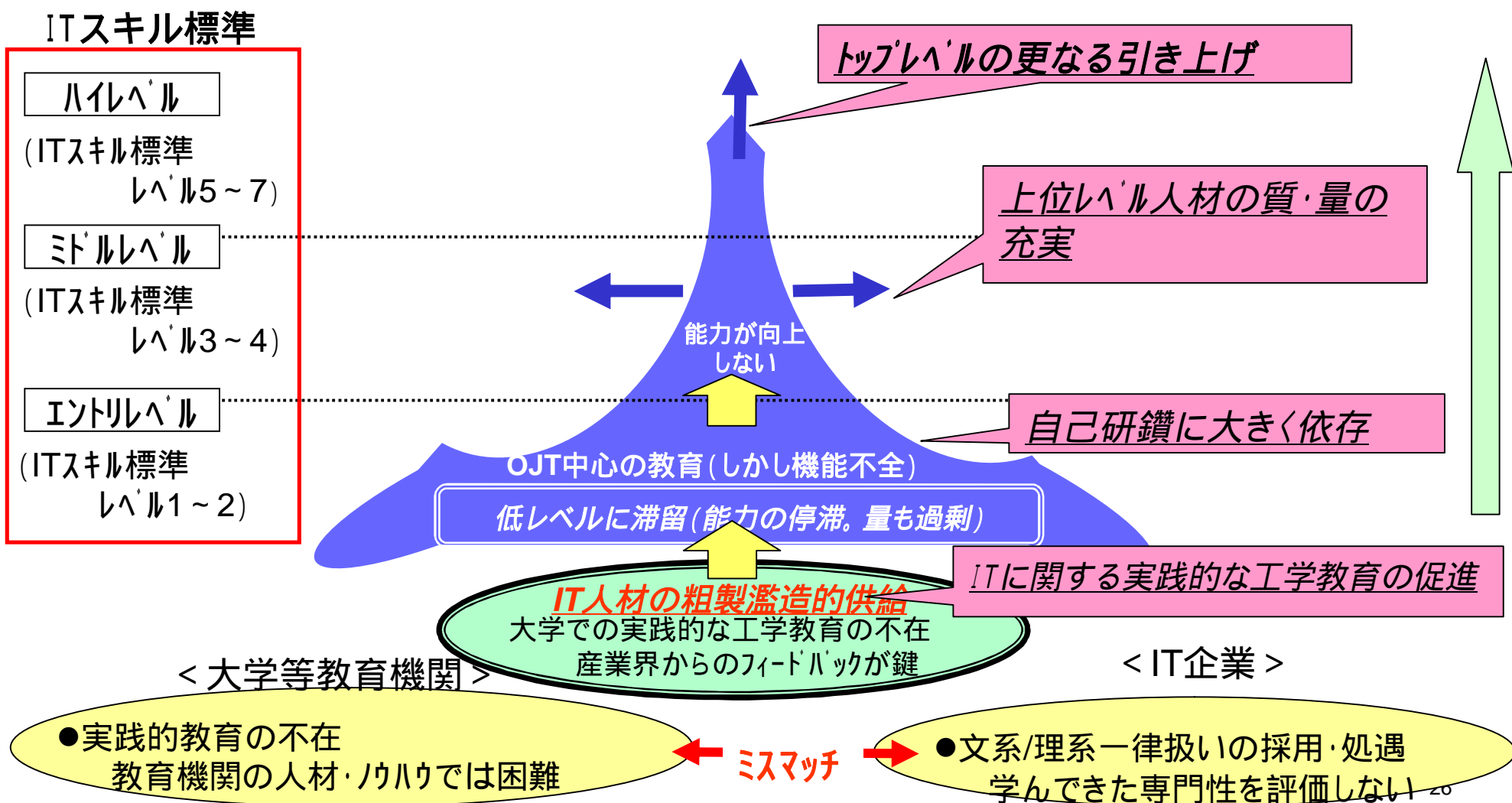
職種	改訂内容
コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野「BT」「IT」を見直し、「インダストリ」「ビジネスファンクション」へ再構成 ・専門分野「パッケージ適用」廃止
ITスペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野「分散コンピューティング」の廃止 ・専門分野「アプリケーション共通基盤」の新設
アプリケーションスペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野「業務パッケージ」の内容見直し

キャリアフレームワーク V2 2006 (参考)



職種	マーケティング		セールス		コンサルタント		ITアーキテクト		プロジェクトマネジメント		ITスペシャリスト				アプリケーションスペシャリスト	ソフトウェア開発		カスタマサービス		ITサービスマネジメント		エデュケーション			
	マーケティング	販売チャネル戦略	マーケティング	訪問型	訪問型	メディア	IT	パッケージ	インテグレーション	インフラ	システム	ネットワーク	データベース	分散	業務	基本	ミドル	応用	小ド	ソフト	運用	オペ	サビ	研修	イン
専門分野	マーケティング	販売チャネル戦略	マーケティング	訪問型	訪問型	メディア	IT	パッケージ	インテグレーション	インフラ	システム	ネットワーク	データベース	分散	業務	基本	ミドル	応用	小ド	ソフト	運用	オペ	サビ	研修	イン
ハイレベル	レベル7																								
	レベル6																								
	レベル5																								
ミドルレベル	レベル4																								
	レベル3																								
エントリーレベル	レベル2																								
	レベル1																								

現状の人材構造と今後の方向性



おわりに

- 最新情報はITスキル標準センターホームページに掲載
URL <http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/index.html>
- ITスキル標準V2 2006ダウンロードページ
URL http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/download_V2_2006.html

ご清聴ありがとうございました。